



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第13号
(10月22日～11月2日)

令和4年10月21日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



**ふじの熟度は5日程度早い！
収穫は有袋果が10月25日頃、無袋果が10月30日頃から！！
風害防止対策は万全に!!!**

I 概要

10月21日時点のふじの果実肥大は、平年並から平年を上回っている。

ふじの熟度は、5日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月25日頃、無袋果が10月30日頃からと見込まれる。ふじの熟度の進みからみて、王林の収穫も平年より早い10月24日頃からと見込まれる。

本年のふじは大玉傾向であることから、つる割れが見られており、また、貯蔵後の内部褐変の発生が懸念されるので、収穫は遅れないようにする。

炭疽病、輪紋病などの被害果は適切に処分し、シンクイムシ類の被害果は健全果に混入しないよう徹底して選別する。

果実疫病の感染を防ぐため、果実に泥が付着しないように注意する。反射資材を片付ける際に土を飛散させたり、収穫した果実は長く野積みをしない。

強風に備え、防風網の点検、補強などの風害防止対策をしっかりと行う。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 白川 裕
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4967

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

10月21日時点のふじの果実肥大は、平年並から平年を上回っている。

○果実肥大（10月21日現在、横径cm、平年比%）

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	9.2
	平 年	8.8
	前 年	8.8
	平年比	105
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	9.2
	平 年	8.5
	前 年	8.5
	平年比	108
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.6
	平 年	8.8
	前 年	8.5
	平年比	98
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	9.1
	平 年	8.8
	前 年	8.8
	平年比	103
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.8
	平 年	8.6
	前 年	8.6
	平年比	102

注 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

(2) 果実熟度

10月19日現在、無袋ふじは平年値と比較して、着色指数はやや高く、蜜果率及び蜜程度はやや低く、硬度、糖度、酸度及びヨード反応は低い。総合的に見て、熟度は進んでいると見込まれる。

有袋ふじは平年値と比較して、着色指数はやや低く、硬度、糖度、酸度及びヨード反応は低い。総合的に見て、熟度は進んでいると見込まれる。

○ふじ（無袋）の熟度の進み

（調査月日：10月19日）

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜程度
黒 石 (りんご 研究所)	本年	358	3.0	14.4	12.4	0.279	2.6	67	0.5
	平年	328	2.8	15.7	13.5	0.399	2.8	71	0.8
	前年	333	2.7	15.4	14.8	0.356	3.0	42	0.4

注1 平年：2001年～2020年の20か年平均

2 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

3 ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数0～5
（小さい数値ほどでんぷんが少ない）

4 蜜程度：0～4（大きい数値ほど蜜入りが多い）

○ふじ（有袋）の熟度の進み

（調査月日：10月19日）

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜程度
黒石 (りんご 研究所)	本年	360	3.1	14.1	11.9	0.284	2.5	8	0.1
	平年	320	3.3	16.1	12.9	0.391	2.8	40	0.4
	前年	328	2.2	15.5	13.7	0.354	2.9	17	0.2

注1 平年：2003年～2020年の18か年平均

2 除袋日：9月21日外袋、25日内袋

(3) 作業等の進み（10月19日現在）

ジョナゴールドの収穫は終盤を迎えている。

ふじの葉摘み、玉回しなど着色手入れが行われている。

2 作業の重点

(1) 晩生種の収穫

ア 王林、ふじ

ふじの熟度は5日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月25日頃、無袋果が10月30日頃からと見込まれる。王林の収穫始めは5日程度早い10月24日頃からと見込まれる。

今年のふじは大玉傾向であることから、つる割れが見られており、また、貯蔵後の内部褐変の発生が懸念されるので、収穫は遅れないようにする。

王林、ふじの収穫時の標準指標

品種	地色	硬度 (lbs)	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	食味
王林	4～5	14～16	13%以上	2～3	—	3.5以上
ふじ有袋	—	14～16	13%以上	2程度	1程度	3以上
無袋	—	13～16	13.5%以上	2以下	2以上	4以上

注1 地色：果実カラーチャート・リンゴ・王林の指数1（濃緑色）～7（黄色）

2 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

イ シナノゴールド、ぐんま名月

収穫始めは、シナノゴールドが10月21日頃、ぐんま名月が10月25日頃である。

シナノゴールドは、収穫時期が遅すぎると油あがりが多くなるので適期に収穫する。

ぐんま名月は、果肉の軟化が早く、蜜褐変の発生が多いので、年内販売とする。

(2) 山選果の徹底

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。

本年は、炭疽病、輪紋病、すす斑病、すす点病の発生が見られる。選果の際には腐敗果だけではなく、斑点の生じた果実が混入しないように注意する。

また、各地で日焼け果やさび果、つる割れの発生が見られるので、出荷先の基準により選別・出荷する。

(3) 病虫害対策

ア 果実疫病（おそ疫病）

反射資材を片付ける際は、土を飛散させないようにし、りんご樹にかけて干さない。収穫用のかごや箱の土はあらかじめ洗い落としておく。

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入しない。収穫した果実は長く野積みをしていない。

イ 炭疽病、輪紋病

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

ウ 腐らん病

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

エ 黒星病

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

二次伸長葉に黒星病の発生が見られた場合は、来年の感染源となるので、必ず摘み取って処分する。

オ シンクイムシ類

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(4) 風害防止対策

強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(5) ひょう害対策

被害が見られた場合でも、生食での販売が可能な果実については通常どおりの管理を行う。

収穫した果実は、果実腐敗の発生を抑えるため、速やかに冷蔵庫に搬入する。

(6) 大雨に対する事後対策

水に浸かった果実は区別して収穫する。

3 一般作業

- (1) 鳥害防止対策 (2) 野ネズミ対策

4 今後の作業 (11月3日～)

- (1) 晩生種の収穫 (2) 病害虫対策 (3) 風害防止対策 (4) 野ネズミ対策
(5) 雪害防止対策 (6) 堆肥づくり、酸性土壌の改良 (7) 園地清掃

————— 《 秋の農作業安全運動展開中！ 》 —————

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

————— 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》 —————

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

次回の発行は令和4年11月2日（水）の予定です。